

Sponsor a Child

# クリスチャンパートナーズ

## 通信第 109 号

- 
- |   |   |
|---|---|
| ・発行日／2022年5月30日                             | ・発行所／クリスチャンパートナーズ   |
| ・本部／〒350-1126 川越市旭町 1-19-18<br>日本基督教団 川越教会内 | ・電話 049-242-4338  |
| 郵便振替口座／00150-0-134994                       | ・ <a href="https://www.christian-partners.com/">https://www.christian-partners.com/</a> |
- 

「主は…『子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない』そして子供たちを抱き上げ手を置いて祝福された」 マルコ 10 章 15、16 節

理事長 木ノ内一雄

2月下旬にロシアがウクライナに武力侵攻しました。国連の常任理事国であり核所有国が隣国に武力を行使することは考えられないことでした。当初、数日でウクライナは負けると思われましたが、3か月を過ぎても決着はつかず、形勢はむしろロシアにとって不利になっているように思われます。毎日、テレビや新聞で悲惨な光景を目にして心を痛めずにはられません。

3月にミャンマー出身の牧師とオンライン理事会を持ち、また、5月4日にシンガポールとミャンマーを結んでオンライン会議を持ちました。ミャンマーの状況はウクライナの陰に隠れて報道で取り上げられることは少なくなりましたが、その後も国内の混乱は続いており改善は見られません。「恵みの家」では子供たちは6人ですが、他にも2人の子が入り出しています。子どもたちはクーデター後1名を除いて学校に行くことが出来ないまま2年が経ちました。来年は全員を学校に行かせたいと言っていました。3月の理事会では30年前ミャンマーを出国した牧師が、ミャンマーの民主化のために命をかけずに出国し、平和な日本に住んでいることを申し訳なく思っていると言っていました。

子どもは国の宝です。子どもたちの教育を受ける機会が奪われているとしたら、国に未来はありません。その牧師は自分たちができることは何でもすると言ひ、教会で衣類や日用品を集めて母国に送っていました。

私たちクリスチャンパートナーズのできることは限られています。幸いなことに「恵みの家」の責任者の方々は牧師です。子どもたちに聖書を教えることはできるようです。オンラインで子どもたちの暮らしぶりを見て、責任者の方々と話すことができたのは、とても良い機会となりました。オンラインの活用はコロナ禍がもたらしたものと言えます。

ミャンマーの子どもたちを覚えてお祈りください。

# ミャンマー ダラの「恵みの家」2021年度報告

責任者・牧師 ネイ・ミン・タン

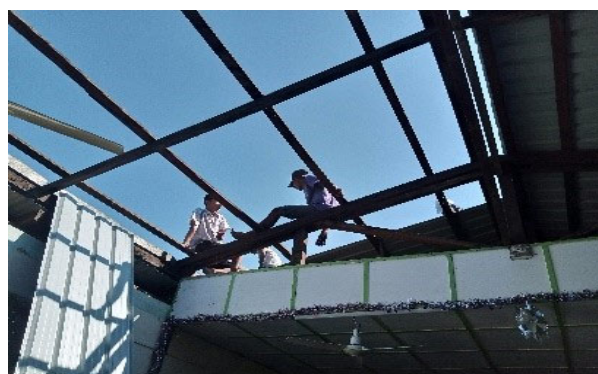
2021年、私たちはコロナ蔓延と、軍のクーデターに直面し、非常な困難を経験しました。学校に行けなくなった子どもたち、ホームレスになった子どももいます。彼らの住居が破壊され、多くの問題に直面しています。この子どもたちのために、皆様のお祈りをお願いします。

私たちは、礼拝は行いませんでしたが、教会員との交わりは続けました。家庭訪問をして、家族とともに祈りました。その時、必要な生活用品、米、うどん、油、塩にマスクまで配り、薬品も届けました。その費用はCNECから二度にわたって送られてきました。(シンガポールを通して、日本からの私たちの献金も届きました)。

昨年、教会堂の天井と屋根の修復費用の申請をしました。必要な費用を送っていただいたので、修復工事が済み次第、礼拝等のプログラムを再開します。どうぞ、その活動が順調にいきますようにお祈りください。



信者の家族を訪問



修理中の屋根の様子



クリスマスを祝う子どもたち

私たちには、SACの支援を受けている子どもが20名いて、「恵みの家」養護施設には孤児6名が生活しています。(107号参照)子どもたちの健康状態はよく、元気です。どうぞ、この子どもたちのためにお祈りください。また、教会員が信仰に確信を持ちますように、それぞれの仕事に励みますように、お祈りください。

# インドネシア奨学生の近況

クリスチャンパートナーズの支援者の皆様へ

西カリマンタンの子どもたちを継続してご支援くださり、心から感謝いたします。宣教の働きに携わりながら、そして昨今のニュースを見ながら、奥地の村々が変わっていくためにも、やはり「人」がカギであると実感しています。支援している子ども達の将来を信じて、どうぞ続けてお祈りとお支えをよろしく願いいたします。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ

クリスチャンパートナーズからの奨学金を受けている中学生2名をご紹介します。家から中学校が遠くて通うのが難しく、グロリア寮に住んでいます。中学校は寮の隣だそうです。

ロレンシア ニア 2008年5月10日生まれ、中学2年生

宗教：カトリック

将来の夢：陸軍女性軍人

祈りの課題：学校生活と将来の夢のために。村に住む両親が健康で、農作業に従事し、家族の信仰が成長するようにお祈りください。



マリア ネラ 2008年2月15日生まれ、中学2年生

宗教：カトリック

将来の夢：医師になること。

祈りの課題：私の健康・勉強など学校で必要なものが与えられますように。村に住む両親の健康と農業のため、お祈りください。



## ドノから近況報告が到着しました

(107号 p 4 参照)

シャローム：西カリマンタンの天気は安定で雨が降ったり暑くなったりしています。コロナの状況は感染者は少し減少し、私たちは通常の活動に戻りつつありますが、マスクを着用しこまめな手洗いを続けています。

私の勉学は順調に進んでいます。先日、論文テーマのアウトラインを提出し、プレゼン発表も終わりました。今、論文のための調査に行く許可を待っているところです。私の論文テーマはCovid-19の感染拡大防止についてです。この論文が終わったら、専門看護を取り、それが終わったら卒業です。

卒業試験の前にはいくつかの看護についてのセミナーにも出席しなければなりません、それですべての学びが終わります。2023年中に卒業できることを目指しています。

皆様のご支援とお祈りに感謝しています。どうか皆様の上に主イエスキリストさまからの報いがありますように。

2022年5月4日

ドノ

## 西カリマントン SAC 宣教活動報告 2021 年後期

主の平和と愛が皆様とともにありますように。教会の主なるキリストは、コロナの日々にあっても SAC 宣教を導き、守ってくださいました。私たちはすでに 2 年以上、困難な日々を過ごしてきましたが、プログラムは前進しています。これは教会と、奉仕する人々の協力のたまものです。

コロナの世界的流行はインドネシアをも襲い、いまだに収束していませんが、SAC の働きは続いています。教会では礼拝が守られ、SAC の子どもたちはオンラインで勉強しています。

これには良い面と悪い面があり、子どもたちは親と一緒に過ごす時間が多くなって、親を手伝うことができます。一方教材を自分で買わねばならないことが多く、また村での電力の問題も起こります。先生や友達に会うことも難しいです。

皆さまが子どもたちへの支援を、経済状態が悪化する今も、継続してくださっていることに感謝します。子どもは誕生日・クリスマスに贈り物をいただき、大変喜びます。この辺りでは、誕生日を祝う習慣がないのです。

12 歳以上の子どもたちの 2～30% が予防注射を済ませて家族と一緒に年末休暇を過ごし、登校して教師・友達と一緒に勉強ができるようになりました。

SAC プログラムに関わる子どもたちの何人かは高校を卒業し、その上の学校に行くものも出てきましたが、経済的に進学が困難な者もおります。

年度替わりの 10 月に、SAC プログラムに参加する子どもが 31 名になりました。ポンティアナックから 6 人、ボドックから 13 人、セカダウから 12 人です。この少年少女が教会の奉仕者として働き、やがて親たちを主のもとに導いてくれるでしょう。

支援者のみまさまとご家族の上に、2021 年のクリスマスと、2022 年の主のお守りを祈ります。

シスター ノヴィタ

### SAC のクリスマス祝会



【理事会報告】第 217 回理事会は 2021 年 11 月 30 日にウェブ会議で開催。日本で伝道するミャンマー出身の Shwe Mee さんよりミャンマーの現状を聞く。「恵みの家」への送金を一時保留。「通信」108 号 12 月 20 発行。第 218 回理事会は 2022 年 3 月 7 日ウェブ会議で開催。日本バプテストのマキンサンサンアウン牧師からミャンマーの現状を聞く。「恵みの家」についての情報を得る努力を続ける。

【臨時理事会報告】2022 年 5 月 4 日ウェブ会議で開催。招集者は CNEC シンガポールの責任者 James Lai。ミャンマーから「恵みの家」責任者 Nay Min Tun 牧師、ヤンゴンの施設の責任者 Theis Thun 夫妻出席。シンガポール職員 2 名に日本の理事 6 名参加。施設の子どもたちを映像で紹介。施設内で聖書を教えることは可能。街頭での検問などはある。銀行が正常に機能していないので、シンガポールからの送金は代行者に依頼。通訳をしてくださった Theis Thun 牧師は理事長とヤンゴンで会ったことがある。今後このような機会を年に一度持ちたい。 【次回理事会 2022 年 6 月 13 日ウェブ会議で開催予定】